

「日本一の紙のまち・富士市」に向けた決議

秀峰富士の南麓に位置する富士市は、豊富な地下水に恵まれ、明治時代から製紙産業が発達し、全国有数の紙・パルプ産地を形成してきている。

こうした中であって、富士市は再生紙の生産において国内屈指であり、トイレットペーパーを初め、漫画本や雑誌の原紙、板紙、災害時に活用される段ボールなどの多くを生産している。また、古紙の再生過程では大量のペーパーズラッジが発生しているが、企業の努力によってその再利用も図られており、換言すれば、リサイクル・循環型社会の優等生として日本社会に大きく貢献しているところでもある。

近年、電子情報機器の普及を背景に紙需要が低迷し、生産縮小など、紙・パルプ産地としてその取り巻く環境は厳しさを増しているところであるが、富士市の発展には地場産業である製紙産業の活性化は必要不可欠である。

よって本市議会は、再生紙を初めとする地元製品の活用を大いに啓発するとともに、災害時における紙に関するあらゆる備えに万全を期すなど「日本一の紙のまち・富士市」に向け、その優れた功績を市民と共有し、全国に発信していくものである。

以上、決議する。

平成25年6月21日

富士市議会